

光雲

真如の月をみつめて

今年が始まってあつと言う間に6ヶ月が経ちました。ついこの前まで春だと思っていたんですが、7月2日でちょうど一年の折り返し地点だそうです。毎年

この時期になるともっと時間を大切にしなければと考えさせられます。今年の梅雨も不安定な天候が続いていますが皆様体調を崩されておられませんでしょうか。さて、先日曹洞宗の本庁への用事で東京に行く機会がありました。これまでは電車で行くことが多かったのですが、今回は宇部空港から飛行機で行くことにしました。用事を済ませて帰りの日、数日前に梅雨に入り東京も山口も雨でした。黒い雲からは雨が降り空も心もどんよりするような天気でした。時間となり飛行機が離陸して徐々に高度を上げてい



聯

ある文が掲げられてある柱の間に仏教の教えが堂内板書して本看で

って厚い雲へと入っていききました。そして、その雲を抜けて目に飛び込んできたのは青い空と眼下に広がるどこまでも続く白い雲でした。さっきまでのどんよりとした気持ちはずこかへ消えてその景色を眺めながら山口まで戻ってきました。

先日お寺にお参り下さった方も同じように飛行機での体験を教えてくださいました。「お葬式の帰りの飛行機で雲を抜けた上空で飛行機の窓からずっと太陽が見えていたんです。不思議な光景であって、どこか見守ってくれていたようだった」というのです。地上から離れた雲の上の景色というものは神秘的であり私たちの心に直接何かを訴えてくれるものがあるのかもしれない。私が長野県にいた頃に千曲市姨捨駅で見た雲海の荘厳さは今でも頭に刻まれていますし、妻の実家ではお正月には必ず近所の山に登って山頂からの初日の出を見るそうです。毎年大勢の方が富士山のご来光を見るために登るのもこの景色が大きな感動を与えてくれるからなのかもしれない。



しれません。私は小学生の頃の学校の授業で「雨が降っている日でも雲の上はいつも晴れているんだよ」と教えてもらいました。しかし、そ

れが不思議でホントなのかな？となかなか信じる事が出来なかったのを憶えています。この年になっても頭では理解できていなくても、雨の日とその上にあるお日様を意識することはなかなかありません。よく私たちの心は天気为例えられることがあります。心の中が晴れの日もあれば雨の日もありますし、時には大嵐のようにイライラが爆発する時もあるでしょう。しかし、どんなに心が曇って嵐が来ようともその上にはお日様が輝いているということを忘れてしまっただけなのではないかと思うのです。仏教では人間の本性を『真如の月』と云って月に例えることがあります。そして、煩惱や迷いの雲がその月の前を通っては隠れてまた過ぎ去っていく。この繰り返しが生であって、煩惱の雲で月が覆われてしまわないように心がけていきたいようにと

【坐禅・写経会のご案内】

お寺と一緒に坐禅・写経をしませんか？ 気軽に参加くださいませ。

坐禅会.. 毎月第四土曜日

十六時〜十七時

(7/25 8/22 9/26)

※この時間以外でも出来ますので、お気軽にお声がけください。

写経会.. 随時行ってます



